

研究ノート 岩手県で用いられる特徴的な言葉について

小 島 聡 子

1, はじめに

近年、地域の言語の多様さの例として、伝統的「方言」ではなく「標準語」とも異なる独特の言葉が取り上げられるようになってきた。これらの語のあり方の多様さを反映して、「地方共通語」や「新方言」など様々な用語もある。具体的には、東北地方に特有なものとして「しなきゃない」(=「しなければならぬ」)、「お先します」などが知られている¹⁾。本稿では、そのような伝統的「方言」とも「標準語」とも異なる地域に独特な言い方について、岩手の例を挙げてみたい。

2, 記号の読み方について

まず、第一に取り上げたいのは①, ②のような四角に囲まれた数字の読み方である。筆者はこのような場合、そのまま「いち」と読むかあるいは「しかくいち」などと読んできたのだが、岩手大学ではこれらを「はこいち」と読む学生があった。あまり耳慣れない言い方だったので、学生を対象に調査してみた。

調査は、弘前大学(2007年度集中講義/回答数152)・岩手大学(2008年度前期/回答数150)の学生を対象とし、「a ①・②をなんと読むか/b 出身の小・中学校の所在地」の二項目をレスポンスカード(出席票)に記入してもらった形式で行った。

bについて、この種の数字は基本的に学校での使用が想定されるもので、読み方は家庭でなく学校で身に付けたと考えられるため、出身の学校を問うことにした。その際、直近に通っていたのは高校であろうから、高校まで回答してもらうことも考えた。しかし、高校は通学域がかなり広く、場合によっては県域を越えての通学もあり、地域的な広がりがわかりにくくなるので、今回は小・中学校の所在地を調査項目とした。

また、いつごろまでにこれらの読み方が定着するかは、別途調査が必要となるが、かなり早い段階、遅くとも中学生くらいまでには身に付けている²⁾と考えてよいのではないかと考え

1) 佐藤亮一(2002)p.355

2) 山形県内では、①のように囲まれた数字を読む場合、「いちまる」と数字を先に読むことが知られている。この「[数字]まる」という言い方について、以前、山形県出身の学生が語ったところによれば、中学生くらいで世の中に「まる[数字]」という読み方があることを知り、高校で初めて現実にそう読む先生に遭遇したものの、影響は全く受けなかったという。

たことも、調査項目を中学までとした理由である。少なくとも大学生くらいの年齢では、このような読み方は既に無意識の習慣となっていて、新しい言い方に接しても気付きもしない、あるいは、気が付いても自分の言い方を変えるまでにはいたらないようである。

結果の一覧は以下の通りである³⁾。[]の中に「岩～」で示した数は岩手大学の回答数、「弘～」で示した数は弘前大学の回答数である。なお「しかく」の方は「はこ」と回答のあった地域と重なる地域以外回答数は省略した。

「はこ」と回答した学生の出身学校の所在地 ※は「『しかく』とも読む」と回答

【岩手県】軽米町[岩1] 二戸市[岩1・弘1] 九戸村[岩1] 久慈市[岩1] 野田村[岩1] 松尾村(現八幡平市)[岩1] 盛岡市[岩24・弘5] 矢巾町[岩1] 紫波町[岩2] 滝沢村[岩2・弘1] 雫石町[岩1] 岩泉町[岩1] 川井村(現宮古市)[岩1] 宮古市[岩2] 釜石市[岩1] 山田町[岩1] 大槌町[岩1] 花巻市[岩5・弘1] 西和賀町[岩1] 北上市[岩6・弘5] 金ヶ崎町[岩1] 江刺市(現奥州市)[岩1] 一関市[岩1・弘1] 藤沢町[岩2] 大船渡市[岩1] 陸前高田市[岩1] /沿岸北部[弘1] 市町村不明[岩7]

【秋田県】鹿角市[弘2] 大館市[岩2] 北秋田市[岩1] 秋田市[弘1] 角館町(現仙北市)[岩1] 大曲市(現大仙市)[岩1] 大仙市[岩1] 湯沢市[岩1] / (市町村不明)[岩3]

【宮城県】気仙沼市*[岩1] 登米市*[弘1] 富谷町*[岩1] 古川市(現大崎市)[岩2] 三本木町(現大崎市)[岩1] 仙台市[岩5] /県中部[岩1] 市町村名なし[岩2]

【大分県】市町村名不明[弘1]

「しかく」と回答した学生の出身学校の所在地 ※は「『はこ』とも読む」と回答

【北海道】函館市 岩見沢市 旭川市 北広島市 帯広市 札幌市 室蘭市 稚内市/十勝地方(市町村不明)

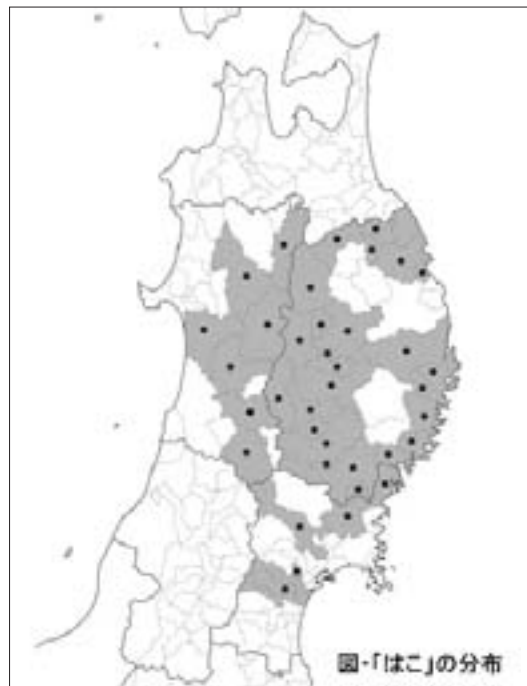
【青森県】五所川原市 青森市 弘前市 十和田市 五戸町 つがる市 むつ市 田子町 野辺地町 板柳町 黒石市 八戸市 三沢町 尾上町(現平川市) 南部町/(市町村不明)

【秋田県】横手市*[弘1] 大館市[弘1] 秋田市[岩1]/(市町村不明)[弘1]

【岩手県】久慈市[弘1] 盛岡市[岩1・弘1] 釜石市[岩1] 一関市[岩1]

【山形県⁴⁾】山形市 新庄市 米沢市 高島町 /東置賜郡(町村名不明)(市町村不明)

【宮城県】仙台市[岩2・弘1] 気仙沼市[弘1] 鳴子町(現大崎市)[弘1] 白石市[岩1] 名取市[岩1]/(市町村不明)[岩1・弘1]



3) このほか「だいまん(大間)」=宮城県、「だんらく(段落)」=青森県などの回答があった。

4) ここでも「しかくいち」ではなく「いちしかく」である。

【福島県】会津美里町 須賀川市 福島市 伊達市／（市町村不明）

【茨城県】下妻市 笠間市

【栃木県】茂木市 小山市 那須町 足利市／（市町村不明）

【埼玉県】（市町村不明）

【新潟県】新潟市

【富山県】富山市

【静岡県】島田市 沼津市

【愛知県】名古屋市

【奈良県】奈良市／（市町村不明）

【三重県】尾鷲市

【福岡県】北九州市 田川市

【大分県】大分市

「はこ」という読み方は、岩手県・秋田県・宮城県にわたって見られるが、3県ともに「はこ」と読むと回答のあった地域でも「しかく」と読むという回答があり、また同じ県内で「しかく」という回答だけの地域もあって、全県にわたって「はこ」という読み方に統一されているということはない。その点で、山形県で①を「いちまる」と読む場合とは異なる。ただし、今回の調査はそれぞれの全県域を覆う形でのものではなく、回答者がいなかった地域や、「しかく」としか回答のなかった地域にも「はこ」が広がっている可能性はある。（なお、大分県は「しかく」と「はこ」1名ずつ回答があったが、数が少ない上地域的な広がりもわからないので九州の状況は措いておく。）

ただ、岩手県内では、例えば盛岡市では「はこ」29名に対し「しかく」は2名であり、県内全体でも「しかく」と回答したのは5名に過ぎないことから、「はこ」が優勢といってよいようである。一方、秋田県では、秋田市を除くと沿岸地域で「はこ」という回答はなく、今回の調査の結果に限っていうなら「はこ」の地域は岩手県と接する内陸を中心に広がっているとも言えそうではある。しかし、全体の回答数自体が少ないため広がりやを特定することは難しく、「はこ」と「しかく」のどちらが優勢かも決めがたい。また、同様に宮城県も回答数が十分ではないため確実なことはいえないが、仙台市より南では「はこ」という回答はなかったことを考えると、こちらも岩手県に近い地域に広がっていると見ることは可能かもしれない。

一方、3県（と大分県）以外の道・県では、「はこ」と読むという回答はなかった。特に、岩手・秋田両県に接しているにもかかわらず、青森県に1例も見られないのは興味深いところである。青森県の方は江戸時代の藩の区分に従って大きく「津軽方言」と「南部方言」の二つに分かれ、南部方言は岩手県の方言に近いとされるが、その南部方言を話す地域（八戸など）でも「はこ」と読むという回答はなかった。現在の新しい県境が、言葉の境界となっていることがわかる。

また、上記の調査の際、岩手大学のクラスでは、もう1項目「c『問題文の□を埋めなさい』の□をどう読むか」も合わせて尋ねてみた。

こちらは一人で複数の読み方を回答するものが多かったが、少なくとも回答の中に「はこ」が入っていたのは、以下の通りである。

【岩手県】盛岡市15 二戸市1 雫石町1 山田町1 野田村1 花巻市1 紫波町2 釜石市2 西和賀町1 北上市2 陸前高田市1 大船渡市1 /不明4

- 【秋田県】大館市2 鹿角市1 大仙市1 大曲市1 北秋田市1 秋田市1 /不明3
 【宮城県】仙台市3 古川市(現大崎市)1 気仙沼市1 富谷町1 /県中部1 不明1
 【奈良県】奈良市1

「はこ」以外の読み方としては「くうらん」「しかく」「ほにゃらら」などが見られた。

空欄の四角を「はこ」と読む地域の広がり、基本的に「はこ〔数字〕」と読む地域と重なるもののそれより少し狭く、また人数も少なくなっている。例えば、花巻市はaでは「はこいち」という回答は5名だが、cで「はこ」と読むとの回答は1名で、残りの4名は「くうらん」と回答している。一方、このクラスでaに「しかく」と答えたのは岩手県全体で3名、秋田県で1名だったが、このうち盛岡市の1名を除く3名はcの方は「はこ」と読むとの回答であった。とはいえ、この4名はいずれも「はこ〜」という読みのある自治体の出身であり、自治体単位で見れば空欄の四角を「はこ」と読む地域は数字の囲みを「はこ」と読む地域に含まれているといえる。つまり、四角で囲われた数字を「はこ〜」と読む地域では、空欄の四角も「はこ」と読む可能性が高く、逆に、数字の方を「はこ〜」と読まない地域では空欄の四角を「はこ」と読むことはあまりないと考えてよいと思われる。

このことについて、岩手大学の教室で紹介すると学生たちは一様に驚く。「はこ」と読まない地域から来ている学生はそのような読み方が通用していると知って驚く一方、多くの「はこ」と読む学生たちは「はこ」という読み方が驚かれることに驚くので、地域独特の読み方とは気がついていないと考えられる。これを「方言」と呼ぶなら「気づかない方言」であり「学校方言」と呼ばれるようなものの一種であると考えられる。なお、今回の調査は断片的なものに過ぎず、その伝播の経路なども合わせて今後の課題としたい。

3. 「特に」に「も」を付ける言い方

3.1 用例の広がり

次に、取り上げたいのは「特にも」という言い方である。

「特に」に「も」をつけることは、他では余り耳慣れない表現であるが、岩手県では珍しくない。例えば次のような例がそれである。(以下、いずれも下線は引用者)

これからは災害復旧、復興に力を入れることとし、特にも当面の課題である観光への風評被害への対応にしっかり取り組んでまいりますので、県民の皆様や関係各位のご支援、ご協力をお願いしたいと思います。〔岩手県・平成20年7月28日知事会見記録〕

この例は、岩手県知事・達増拓也氏の記者会見での発話であるが、このほかにも同様の例は多数見られる。そこでまず、「特にも」という表現がどのような範囲に広がっているかについて検討する。

3.1.1 新聞の例

全国的に使われるのかどうかを確認するため、朝日新聞記事データベースで全期間、アエラと週刊朝日の記事も入れて検索してみた。「特にも」は41件ヒットし、そのうちほとんどは「特にもうかって」など「特に」のあとに「も」で始まる単語が続く例で副詞の「特にも」ではな

いが、4例は副詞の例が見つかる。以下の通りである。

- ・こうした「生存伝説」は、東北全般、特にも岩手や青森、それに北海道などに数多く言い伝えられているのである。〔朝日新聞1999年08月18日 朝刊 岩手2〕
 - ・その折り、さらに向かって「それ、かなたに桜木の特にも見事に咲いている花が見えるではないか」問うたという。〔朝日新聞2005年01月06日 朝刊 岩手2〕
 - ・大阪城中の慶喜は、当初から朝廷に対抗する意思は毛頭無く、ただ、薩摩の出方、特にも「小御所会議」や江戸市中の「焼き打ち騒動」など、目に余る行動を敵視していたのである。〔朝日新聞2008年01月11日 朝刊 岩手全県〕
 - ・これからの新政府の方針、特にも奥羽諸藩のとるべき方向などについて、官軍の事実上の実力者である西郷の意見を聞く考えであった。〔朝日新聞2009年02月17日 朝刊 岩手全県〕
- ※いずれも朝日新聞データベースによる

しかし、この4例とも朝日新聞の地方面(岩手県)に記載された記事である。執筆者は金野静一氏で、金野氏は記事に付されている略歴に「大船渡市生まれ。立正大学文学部卒。高校教諭などを経て県立博物館長、県文化財愛護協会長。専門は民族学で、著書に「岩手の伝説」「三陸物語」など多数。」とあるように、岩手県の著名な文化人である。

この「特にも」は、新聞に記載されていることを考えるとかなり高い文体の語として用いられているといえる。とはいえ、朝日新聞にはこの4例以外1例も見出されないことは、岩手県以外の地域ではあまり用いられない表現と考えてよいだろう。

また、東北地方のブロック紙とされる『河北新報』の「コルネット」というウェブサイトでは、サイトに掲載された東北のニュースが、直近の6ヶ月分について検索できる。このサイトで検索した限りにおいて、『河北新報』でも「特にも」は見つからない。

一方、岩手県の地方紙に『岩手日報』という新聞がある。この『岩手日報』のウェブサイト「岩手日報Web News」でも、ウェブに記載されている範囲の限られた記事については検索が出来るが、こちらでは何件か「特にも」の例が見つかる。

- ・特にも本県を「世界レベルの好土壌だ」と称賛。〔2010/03/14「紫波ワインが09年ベスト評論家の田中さん絶賛」〕
- ・特にも死亡災害の7割を占めるといわれる三大災害（墜落・転落、重機災害、崩壊・倒壊）の防止へ「引き続き講習会などで注意を呼び掛けていきたい」と気を引き締める。〔2010/02/02「労災死、過去最少13人 09年の県内まとめ」〕

以上のことから、少なくとも岩手県内では新聞記事に見られるような書き言葉として用いられるが、他の地域では東北地方でも、用いられることが少ないとはいえそうである。

3.1.2 自治体の使用例

次に、インターネットを利用し岩手県の自治体の使用例を調査した。Yahoo!JAPANのウェブ検索で「条件を指定して検索」機能を利用して、岩手県内の各自治体のサイトをドメイン指定し、「特にも」を「順番も含め完全一致」で検索すると、普代村以外のすべてのサイトにおいて副詞「特にも」がヒットする。

参考までに、今回の調査での各自治体のヒット数と各自治体の例を一例ずつ挙げておく(2010

年4月11日現在)。なお、サイトによっては一部の広報誌や議事録が検索にかかっていない場合があります、個別に検索するとさらに用例数は増える。

- ・洋野町 26例 「この件については、特にも合併協定項目の中で、合併時まで調整を必要とする事務事業の一元化の調整結果でございます」〔第19回種市町・大野村合併協議会会議録〕
- ・久慈市 5例 「市民にどの程度活用されているか疑問である。特にも、高齢者の利用促進が課題ではないか。」〔平成18年度市政懇談会における提言等に対する取り組み状況・提言内容欄〕
- ・野田村 4例 「特にも、今後の地方分権の進展に即応し、地方公共団体が自主性を持った団体として」〔野田村職員『人材育成基本方針』〕
- ・普代村 0例
- ・田野畑村 1例 「特にも政治や自治会などの社会活動においては、男性主導で進められている傾向があります。」〔たのはた男女共同参画プラン・第2章計画の内容〕
- ・岩泉町 8例 「東北地方、特にも龍泉洞のある岩手県岩泉町は、梅雨明け前は暑く、梅雨明け後は雨が降り寒い日が多かったです。」〔龍泉洞ホット情報〕
- ・宮古市 17例 「特にも、平成14年5月に開催された、国の社会資本整備審議会道路分科会・第5回基本政策部会において発言する機会があり、その際、それまで費用対効果で議論されておりました道路整備の必要性に対して、市民の声として「命を守る道路」という表現を初めて用い、それを主張いたしました。」〔平成21年度宮古市経営方針〕
- ・山田町 6例 「特にも、本年は、統一地方選挙の年です。」〔やまだ議会だよりno.115〕
- ・大槌町 52例 「ただ、特にも今回沿岸部にこういった傾向があったというのは」〔平成18年度第2回議会定例会(6月)会議録〕
- ・釜石市 81例 「特にも、公民館の取組みは悪戦苦闘した状況も見られる。」〔平成19年度第3回釜石市社会教育委員会議開催結果〕
- ・住田町 10例 「特にも個々の農家の経営規模が小さい本町では、品目横断的経営の要件を満たすことは困難であることから」〔平成18年3月議会定例会町長施政方針演述〕
- ・大船渡市 39例 「政策形成過程への市民参画の推進、特にも若年層及び女性など幅広い層からの積極的な参画を推進し」〔大船渡市行政改革大綱〕
- ・陸前高田市 47例 「特にも公共交通機関が乏しく、道路に依存する割合が高く、且つ、道路整備が遅れている三陸地域にとっては」〔三陸縦貫自動車道の早期全線事業化を求める意見書〕
- ・軽米町 6例 「クマによる人身被害のほか、農畜産物への被害対策など、特にもご注意ください。」〔広報かるまいお知らせ版第110号〕
- ・九戸村 2例 「県内は医師不足で、特にも県北・沿岸地区が深刻です。」〔広報くのへ平成18年9月号〕
- ・二戸市 4例 「率直に感じたことは安比川沿いは、特にもこの堀野方面はもはやこの地域のコアタウンになっているなど」〔第1回二戸市・浄法寺町合併協議会会議録〕
- ・一戸町 14例 「特にも、国のいわゆる「三位一体の改革」や岩手県の「行財政構造改革プログラム」による地方交付税や補助金の大幅な削減と景気低迷による税収の落ち込みなど、厳しい財政状況の中で」〔一戸町行財政システム改革大綱〕
- ・葛巻町 31例 「子どもたちの増、特にも定住化については何とか定住化を推進して」〔平

- 成21年第10回葛巻町議会定例会会議録]
- ・岩手町 6例 「特にも春は空気が乾燥して火災の起こりやすい状況になり」〔公式ホームページ>暮らしのガイド>農林業>林業情報>山火事防止についてのお願い〕
 - ・八幡平市 25例 「公共事業等に充当する市債の発行額については、前段の「3 公債費負担適正化計画の概要」における各年度の発行計画額を上限とし、特にも発行する市債については合併特例事業債や辺地対策事業債、過疎対策事業債などの交付税算入率の高い市債の発行を原則とする。」〔八幡平市公債費負担適正化計画・平成19年度策定分〕
 - ・盛岡市 268例 「障害や障害者、特にも聴覚障害者への理解を深め」〔ウェブもりおか:平成18年度 事務事業「手話奉仕員養成事業」評価シート〕
 - ・滝沢村 178例 「特にも不況で、消費者心理も冷え込んで」〔平成20年12月16日会議録〕
 - ・雫石町 100例 「特にも、本年度は、後期計画の中間年であることから」〔平成20年度副町長の業務遂行に関する協約〕
 - ・矢巾町 21例 「さらなる交通量増大、特にも大型車の増大、老朽化の進行とあわせ」〔平成20年第4回矢巾町議会定例会〕
 - ・紫波町 6例 「このような中、特にも、次世代を担う子どもたちや、子育て盛んな世代の食生活の乱れが懸念されることから」〔ポータル紫波:町からのお知らせ:町食育推進計画策定委員を募集〕
 - ・西和賀町 18例 「特にも早急に、改修を要する水路を改修します。」〔西和賀町議会だより:平成21年8月25日号〕
 - ・花巻市 95例 「土日祝日運行して欲しい。特にも土曜日は開院している病院もある。」〔花巻市公共交通基本計画(素案)パブリックコメント意見募集結果について〕
 - ・遠野市 97例 「市民との協働で熟慮を重ね、自前で策定した「遠野市中心市街地活性化基本計画」が平成21年3月27日に内閣総理大臣から認定され、特にも市民の意見が取り入れられた事業が現時点で順調に動き出していると認められる」〔平成21年度定期監査(後期)結果報告書〕
 - ・北上市 44例 「人口の増加を反映して、アパートなどの集合住宅の数も平成18年には約1,700棟に上り、特にも分別の徹底を図るため、集合住宅居住者に対しごみの分別指導を行ってきました。」〔家庭ごみ手数料化実施計画・平成20年5月〕
 - ・金ヶ崎町 23例 「今年度は従来の取り組みに加え、特にも雇用対策に力をいれて進めてまいります。」〔平成21年度金ヶ崎町施政方針〕
 - ・奥州市 92例 「特にも、現在の石油製品等の異常高騰は、国際的な原油の高騰が原因であり」〔原油高騰への緊急対策を求める意見書・平成20年〕
 - ・平泉町 15例 「その実現に向けて、各ライフステージにおける支援策を段階的かつ総合的に推進して参ります。特にも子育て支援につきましては、」〔平成22年度町長施政方針演述〕
 - ・一関市 54例 「昭和56年4月、沼宮内駅長で退職するまで通算40年間、駅業務全般に携わり、特にも旅客の安全輸送業務に尽くされました。」〔広報いちのせき>平成21年6月1日号>春の叙勲・褒章〕
 - ・藤沢町 6例 「直視しなければならないことは、地方自治を取り巻く環境、特にも自主財源が2割、加えて人口1万人以下の小規模自治体をめぐる財政環境についてであります」〔平成19年度藤沢町施政方針〕

以上は「特にも」の使用例のごく一部でしかないが、会議録・施政方針や、国への意見書の類、市民への公募等まで、実にさまざまな文書に用いられていることがわかる。会議録や施政方針の類が多く、これらは口頭で話された言葉の記録であることから、「特にも」は話し言葉かとも思える。しかし、自治体の広報誌の類や、口頭で読まれることを想定しているとは思われない報告書の類にも見られ、書き言葉としても用いられる。中には、次のように条例に準じるようなものにも用いられた例もある。

なお、経費節減に関し評価する場合においては、指定管理者の創意工夫で施設運営経費を縮減することにより、指定管理者自身の収入が増加するという指定管理制度の趣旨を損なうことがないよう、特にも指定管理者が経費縮減に努力すればするほど、次回以降の指定管理料が減額されるという、逆のインセンティブが働くことがないよう、十分に留意するものとする。〔宮古市・指定管理者制度についての運用指針〕

以上のような自治体での使用例をみても、岩手県内では決して特殊な表現というわけではないことは確かで、しかも「標準語」として用いられているといってもよさそうである。

ところが、岩手県に隣接する県の自治体（市町村）のサイトを同様に検索しても、殆んど用例は見られない。秋田県内の自治体では全く使用されておらず、青森県内ではむつ市と青森市、宮城県内では利府町と石巻市とにわずかに見出されただけである。以下に列挙する。

【むつ市】

- ・むつ市議会第185回定例会会議録第2号

○市長（杉山肅） 特にも最近では、昔よくありました団体による慰安旅行というのが国内ではだんだん少なくなってきた。

- ・むつ市議会第196回定例会会議録第5号

○2番（澤藤一雄） 特にも旧町村部では、仕事がなく若者が定住できないために急激な高齢化と人口減少によってひとり暮らしや高齢者のみの世帯が多くなっており《略》特にも建設竣工以来70年になんなんとするこの構築物は、戦前に朝鮮半島から徴用された人々による強制労働によって建設させられたもので

【青森市】

- ・平成19年度8月実施：青森市八甲田憩いの牧場の管理運営状況の評価（モニタリング）結果
屋外日除けドームの利用について、一部実施していた予約制度を平成18年度に事業計画に基づき廃止した後、特にも問題もなく現在も平等利用が確保されている。

【利府町】

- ・利府町議会決算審査特別委員会 平成18年9月20日（水曜日）小笠原町子委員
特にも核家族であるということの子育てに対する不安というのが大きいかなというふうなお話でしたけれども

【石巻市】

- ・石巻市立雄勝小学校学校だより『けんじょう』平成21年11月2日発行「表現力を高める」校長・土井正弘
一時間一時間の授業の中で話す力を、そして書く力を高めてほしいと願っています。特にも今後は書く力。書くことによって考えが深まり、まとめ、その結果として話す力も比例して高まります。

これらの例も、先の岩手県の自治体の例と大きく変わるものではなく、どちらかという改まった話し言葉という色彩がつよいようには見える。なお、青森市の例以外はいずれも使用者が明白だが、この使用者が岩手県出身かどうか、あるいは岩手県での居住経験があるかどうか等は確認できなかった。ただ少なくとも利府町の例の発話者、小笠原町子氏の出身は群馬県である。

また、青森市の例は、用法の点で岩手県内の例とは少し異なる点がある。詳しくは後述する。

3.1.3 国会会議録の例

さらに、国会の会議録検索システムを利用して「特にも」を検索してみる。ヒットするのは殆んどが「特にもう少し」とか「テロ特⁵⁾にも」などの例なのだが、何例かは副詞「特にも」の例が見出される。ところが、それらの例は、すべて岩手県の選挙区選出か、比例区選出でも岩手県出身の議員の発言で、他の都道府県の議員や参考人などの発言の中には1例も見出すことが出来ない⁶⁾。用例は、以下の通りである。

第113回衆議院本会議／昭和63年10月06日

○沢藤礼次郎君／今回の冷害の特徴は、一つ、東北地方全般、特にも太平洋側四県が作況指数九〇以下の「著しい不良」となり、被害が甚大であること、

第136回衆議院建設委員会／平成08年02月07日

○沢藤政府委員／私は、議会と建設省との連絡調整に意を用い、委員各位の御意向を正しく行政に反映させ、特にも委員会審議における委員各位の御発言、御質問に対しましては、第136回衆議院外務委員会／平成08年03月13日

○玉沢徳一郎委員／これらの安全が損なわれておる、こう言わざるを得ないのでありまして、特にも沖縄の県民は非常な不安を抱いておると思うのであります。

第139回参議院本会議／平成08年12月16日

○高橋令則君／農協系統の問題、特にも、信用事業の抱える課題に緊急に対処するため…<略>…これに対処できる業務執行体制の強化が求められております。特にも、高い社会公共性を持つ信用事業における経営専念体制の整備は急務であり

第150回衆議院運輸委員会／平成12年11月15日

○黄川田徹委員／特にも、サハリンの天然ガスを海底パイプラインで首都圏に輸送するという事前調査が行われておりますが

第152回衆議院総務委員会／平成13年09月13日

○黄川田委員／地域住民が連帯し、地域ぐるみの防災体制を確立することが特にも重要であると私は思っております。

第155回参議院環境委員会／平成14年11月07日

○国務大臣=環境大臣（鈴木俊一君）／地球温暖化の問題、それから砂漠化の問題について

5) 平成十三年九月十一日のアメリカ合衆国において発生したテロリストによる攻撃等に対応して行われる国際連合憲章の目的達成のための諸外国の活動に対して我が国が実施する措置及び関連する国際連合決議等に基づく人道的措置に関する特別措置法(所謂「テロ対策特別措置法」)

6) 検索すると岩手県選出議員以外の「特にも」かと思いき例は見つかるが、すべて画像を文字に変換する際の誤認識で、「特にも」の例ではないことを確認した。

お話がございました。認識を問うということですが、大変深刻にとらえております。

特にも、その原因が自然現象によるものも御指摘のとおりあるわけでございますけれども

第155回衆議院環境委員会／平成14年11月08日

○鈴木国務大臣／循環型社会形成推進基本法、廃棄物処理法及び関係リサイクル法の整備を行いました。特にも、循環基本法に基づく循環型社会形成推進基本計画、これを半年間前倒しいたしまして来年三月までに策定して

第155回衆議院環境委員会／平成14年11月08日

○高橋（嘉信）委員／六月十七日以前は捨てられ損ということになるわけですが、このような中で、環境保全や特にも今自然再生を唱える環境省の存在がよく見えないのですが

第155回参議院環境委員会／平成14年12月03日

○国務大臣（鈴木俊一君）／今日の環境問題、それがどういう辺りから発生しておるということを考えますと、我が国の経済社会の構造の在り方、特にも国民一人一人のライフスタイルの在り方、そういうところから環境問題の多くが発生していると思います。

第156回衆議院予算委員会第一分科会／平成15年02月28日

○黄川田分科員／特にも、大船渡市の場合は、三陸縦貫自動車道をクロスする農道が既にあることでもありまして、取りつけ道の設置を求めておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

第156回衆議院農林水産委員会／平成15年05月27日

○高橋（嘉）委員 新規学卒者は相変わらず横ばいですし、そして近年はまた社会的要因によって農村からの人口流出が見られております。特にも、高齢化あるいは出生数の減少による自然減及び社会的要因による減少が同時進行する中山間地帯では深刻な問題であると

第156回参議院本会議／平成15年07月07日

○平野達男君／アラブ人、クルド人、トルクメン人が居住し、特にもクルド人がフセインによる大量殺りく兵器使用によって虐殺されたことは動かし難い事実となっています。

第156回参議院本会議／平成15年07月25日

○平野達男君／イラクは民族間や宗派間の根強い対立という、平和に慣れた日本人の理解を大きく超えるかもしれない複雑な問題を抱えている国ととらえる必要があります。特にも、イスラム教内における国民の六〇%を占めるシーア派と、一七%と少数派ながら、かつて英国によってイラク統治の権限と特権が与えられ、その体制を維持してきたスンニ派との宗教的かつ国の覇権をめぐる政治的な対立はどこまで真剣に考えられてきたのか。

第161回参議院イラク人道復興支援活動等及び武力攻撃事態等への対処に関する特別委員会／平成16年12月13日

○主濱了君／また、イラクで人道復興支援活動に携わっている多くの日本人、特にも自衛隊の皆様におかれましては、

第162回参議院決算委員会／平成17年05月16日

○平野達男君／特にも、こう言ったら語弊があるかもしれませんが、このメンバーは各農協の組合長さんとか、そういう方がほとんどであります。

第168回参議院農林水産委員会／平成19年10月30日

○平野達男君／一方、同時に、農村、中山間地域の、特にも中山間地域の農村が大きな岐路に立っている現実も直視しなければなりません。

第168回参議院農林水産委員会／平成19年11月01日

○平野達男君／そして、特にも米の価格の下落というのは…<略>…一番目は、まず農家にとっては米が何といても作りやすい。特にも小規模な農家にとっては米が一番作りやすいということでありまして、

○平野達男君／特にも日本は、今までのいろんな守る、農業を守る、農業を守ると言いながら、自給率は四〇%を割って三九%になっています。

第168回衆議院農林水産委員会／平成19年12月05日

○平野参議院議員／一方、同時に、農村、特にも中山間地域の農村が大きな岐路に立っている現実も直視しなければなりません。

第168回衆議院農林水産委員会／平成19年12月12日

○平野参議院議員／特にも、これからWTO農業交渉を進めようとしているときに、与党と日本の野党の第一党が、農産物の自由化の問題をめぐって国論が二分されているというような印象を自民党が与えるということは、大変な重要な問題であると思っています。

第168回参議院農林水産委員会／平成19年12月18日

○平野達男君／特にも、これは要件緩和をするという前提であるとするれば、要件緩和をするための条件としてはどういう条件というのが提示されているのか。

第168回衆議院農林水産委員会／平成19年12月19日

○平野参議院議員／農村、今委員も特に言われましたけれども、特にも中山間地域の農山村は、今までにない大変大きな変化に今直面をしている、そういう現状認識があります。…<略>…特にも、これからは農地流動化は不可避ですから、利用権設定をしようと思ったら、将来的には、これは個人か法人しかできませんから、個人がだめになれば生産法人にするしかないんです。…<略>…そして、これは特にも筒井ネクスト大臣が非常にこだわっている言葉ですけれども

○平野参議院議員／農村、特にも中山間地域の農村を中心として、今大きな転換点に立っている…<略>…今、日本の農村、特にも中山間地域の農村は大きな変貌の状況に直面している。

○平野参議院議員／これから急速な勢いでそうでなくても農村、特にも中山間地域の農村は変わっていく、変わっていかざるを得ない

第169回参議院予算委員会／平成20年03月18日

○藤原良信君／その役割と意義につきまして、特にもその中での財源保障のその中身についてお示しをいただきたいと思います。

第169回衆議院農林水産委員会／平成20年04月08日

○平野参議院議員／特にも、農家にとっては転作をやる上で非常に条件の悪い、例えば排水が悪いようなところでは、どうしても大豆あるいは麦をつくれと言っても、なかなかできない。

第169回衆議院農林水産委員会／平成20年05月08日

○平野参議院議員／まず、望ましい農業構造とか農地流動化を進める以前に、今の農村、特にも中山間地域の農村はどういう状況になってきているか…<略>…その人口減少社会の波は特にも農山村に押し寄せているという状況の中で、現に農業従事者が減りつつある

○平野参議院議員／党の政策につきまして、特にも選挙期間中においては、核心となる部

分についてはできるだけそこがわかりやすいように、

○平野参議院議員／ぜひ農業に関しての、特にも農業者戸別所得補償法案についての説明をさせていただきたいという運動を党を挙げてやってきております。

第169回参議院農林水産委員会／平成20年06月10日

○平野達男君／特にも私は、繰り返しになりますけれども、エネルギー収支からいったら多分ペイしないと思います。

第170回衆議院本会議／平成20年09月29日

○玉沢徳一郎君／国を守る安全保障にありましては、党にありましては安全保障調査会長、村山内閣での防衛庁長官を拝命し、村山総理には、特にも日米安保堅持、自衛隊合憲の判断をしていただき

第170回参議院農林水産委員会／平成20年11月13日

○平野達男君／そういった意識が今回の一連の横流し事件、最初に、特にも告発文が出てきた段階においても十分な対応をしなかった。

第170回参議院農林水産委員会／平成20年12月09日

○平野達男君／その上に、特にも有害物質のものが乗ってきてこれだけの大騒ぎになったというような全体図、そういうような観点で是非総括することが私は必要だと思えます。

第171回衆議院消費者問題に関する特別委員会／平成21年04月16日

○階委員／そういう消費者委員会のチェックの重要性、特にも消費者庁に対するチェックの重要性について、どのようにお考えでございますか。

国会会議録は戦後の第1回(昭和22年)の分から検索が可能なのだが、「特にも」は一番早い例で昭和63年の沢藤礼次郎氏の発言に見られるものであり、それ以前は見られない。「特にも」は比較的新しい言い方であるということかもしれない。

また、「特にも」使用者は以下の通りである。(選挙区／生年／出身地)

- ・ 沢藤 礼次郎 衆議院・岩手県第2区(旧)／1928年／(岩手県)
- ・ 高橋 令則 参議院・岩手県選挙区／1934年／
- ・ 玉沢 徳一郎 衆議院・比例代表東北選挙区／1937年／田老町
- ・ 主濱 了 参議院・岩手県選挙区／1950年／滝沢村
- ・ 藤原 良信 参議院・比例代表全国区／1951年／大船渡市
- ・ 鈴木 俊一 衆議院・岩手県第2区／1953年／山田町
- ・ 高橋 嘉信 衆議院・比例代表東北選挙区／1953年／胆沢町
- ・ 黄川田 徹 衆議院・岩手県第3区／1953年／陸前高田市
- ・ 平野 達男 参議院・岩手県選挙区／1954年／北上市
- ・ 階 猛 衆議院・岩手県第1区／1966年／盛岡市

生年を見ても、沢藤氏が一番早いがそれでも昭和生まれであり、あとは主として戦後生まれの人々である。これを見てもあまり古くから使われた言い方ではない可能性が考えられる。沢藤氏より世代が上の人々、例えば、小沢一郎氏の父の小沢佐重喜氏(1898年生まれ)や、鈴木俊一氏の父の鈴木善幸氏(1911年生まれ)の発言には「特にも」は見つからない。なお、小沢一郎氏は1942年生まれなので、世代としては使う可能性もあると考えられるが、使わないようである。

もちろん、岩手県以外では少なくともあまり耳慣れない言い方ではあろうから、速記者が「特にも」ではなく「特にもう」のように記録していた可能性も排除しきれないが、一応、記録にないものはないと考える。

ところで、本章冒頭に挙げた例の発話者・達増拓也知事が、衆議院議員をしていた当時の国会での発言の中に「特にも」は1例も見出せないのも興味深い。達増氏は、国会での発言では意識して使わないようにしていたのか、それともともと使っていなかったのが知事になって岩手県内での活動がより多くなった結果「特にも」を使用するようになったのだろうか。少なくとも、知事になってからは、「特にも」はたびたび使っているようである。

言うまでもなく国会で「標準語」を話さなければならないというわけでは決してないが、公の場であることから、ある程度改まった言葉を使う場と認識されていることは確かであろう。とすると、「特にも」も改まった言葉として使用されていると考えてよいものと思われる。

まとめると、現在において「特にも」という表現は岩手県内ではごく一般的な表現であり、かつ文体的にはかなり高い改まった表現で、公用文の文章語として用いられることも可能であるのに対して、他の地域ではあまり用いられない表現であるといえよう。

3.2用法について

ところで、「特にも」は「特に」とどう異なるのだろうか。

「特に」を辞書で引くと、例えば『基礎日本語辞典⁷⁾』では次のように説明されている。

取り立てて言うくらい、他とは程度が著しく違っている状態を表す。「殊に」と用法は似ているが、「特に」は「特別(に)」と同じく意志的に他とは区別し、格差をつける場合に用いられる。

……《略》……

「殊に／殊のほか」が対象自体の著しさに対する、かなり客観的な判断であるのに対し、「特に」は話し手の主観的な意見、判断で、話し手の責任において強調する表現である。そのため、「殊に」には見られない、否定の表現にも用いられる。(p.821)

これまで挙げた例で見ると、「特にも」は辞書で説明されている「特に」に当てはまらないような使われ方はしていない。ただ、すべての例がここに言うように主観的判断を示しているとは言いがたいようにも見える。むしろ、「殊に」と言い換えてもいいような例も多く、客観的な判断といえそうな例もある。例えば、次の例のように、自治体の広報誌の叙勲や功労者顕彰の記事などにおいて、「特にも」が使われることがあるが、そこでの使われ方は、誰もが認めるような称えるべき功績を挙げる際に用いられていて、主観的というよりは客観的な判断であるといえよう。

昭和24年から53年の長きにわたり町消防団員として職務に精励され、特にも副団長として、後継団員の育成とともに、消防事業の発展に日夜努力され〔『広報しずくいし』2003.12「15年度町勢功労者」〕

7) 森田良行 (1989)

また、「特にも」が「殊に」に近いということは、「特にも」がほとんど否定に係る表現では用いられていないということとも対応しそうである。「特に」には「特にない(なし)」という形で「ない」を修飾する定型的な表現がある⁸⁾が、「特にも」では、そのような「ない」にかかる例はあまり見られない。少なくとも、国会会議録の例には1例もなく、自治体の例でも殆んど見られない。ただ、先に挙げた青森市の例だけは「特にも問題もなく」とあって、その点で他とは異なる。総じて、「特にも」は打消しにかかる形では用いられにくいとはいえそうである。

また、「特にも」は、まず大きな括りを示してから、その中の一部を取り立てるとするような用いられ方が少なくない。例えば次の例に見られるような用法である。

本市の9月議会に提案する補正予算の中にある経済対策、特にも学校関係の耐震工事などは、新政権になっても必要性を認識いただき対応してもらいたいと思います。〔ウェブよりおか:市長室:市長記者会見:市長定例記者会見(2009年9月1日)〕

これらは「特に」で表せるが、それをさらに一押しした感じとでもいうような強調表現である。「とりわけ・中でも」などと言い換えることも出来そうである。その他の例も、「特にも」に続く事柄を取り立ててそれを強調したものであるというのは変わらない。「特に」だけでも、〈取り立て〉の意味は持つが、そこを一段と強調したいというような表現と見られる。

岩手大学のある学生(岩手県平泉町出身)に「特にも」について尋ねてみたところ、

- ・改まった感じの話し言葉
- ・偉い人が式典などの挨拶で何かを持ち上げて言う感じ

というようなイメージがあるとの答えであった。さらに、他の機会に講義で話したところ、幾人かの学生が「『特に』を強調したもの」と説明してくれた。また「標準語だと思っていた」とも、いていた。

実際、少なくとも自治体のサイトから収集した用例を見る限りにおいては、会議の議事録や首長のメッセージの類が多く、「改まった話し言葉」というイメージに合致している。公的な話し言葉といえるだろう。とはいえ、各自治体の広報誌の類にも少なからず見出されるので、書き言葉としても十分に文体が高いものと考えられる。

ところで、インターネットで何の指定もせずに「特にも」を検索すると、先の自治体の例などのほかに、ブログや掲示板での使用例が少なからずヒットする。多くは「何の得にもならない」の誤字の例や、「特にもも(桃)が」などの例だが、副詞として使われているものもないわけではない。プロフィールなどをみたところ、「特にも」の出ってくるブログの筆者は岩手県出身であったり、出身ではないが現在岩手県に住んでいたり、多くは岩手県にかかわりのある人のようではあるが、全く岩手県とは関係ない人もある。「特にも」は、岩手県以外で全く使われないわけでもないのである。

ただ、ブログや掲示板の言語は、書き言葉というよりは話し言葉に近く、改まった表現とはいえ、文体的には岩手県内の「特にも」とはやや異なる。また、用法の面でも、先述の否定に係るかどうかという点で、異なっている。例えば「特にもない」あるいは「特にもなし」を

8) ただし、森田(1989)は「しかし『特に』は否定表現そのものには係らない」とし、このような表現については言及していない。

完全一致でインターネット検索すると、次のような例が見つかる。しかし、この例も含め、殆んどがブログや掲示板の例である。

理由が分かりません。それで困ったことは特にもないのですが・・・[『教えて！goo』の中の「履歴のクリアでも消えない閲覧履歴の文字色」]⁹⁾

ブログや掲示板の言葉としては「特にも」は岩手県以外にも広がり、用法も拡大しているといえそうである。

まとめると、「特にも」は、ほぼ岩手県内に限っては高い文体の言葉で、改まった言葉・書き言葉として何かを殊更に取り立てていう場合に用いられるが、一方、あまり文体の高くない言葉としては岩手県内に限らず用いられ、また用法も限定されないということができよう。

3.3 歴史的な例について

ところで、国会会議録の調査では「特にも」は最近になって用いられるようになった言葉のように見えるが、いつ頃から使われているのだろうか。

例えば、19世紀末から20世紀初めの現代語の確立期の言葉を対象としたデータベース『太陽コーパス』では副詞「特にも」は見つからない。あまり一般的な語ではなかったことが窺える。

しかし、その他のところから、多くはないがいくつか古い例を見つけることができる。例えばインターネット上の電子図書館『青空文庫』を検索すると、次のような例が見つかる。

- ・二十八番の観音は、その境内にいと深くして奇しき窟あるを以て名高きところなれば、秩父へ来し中斐には特にも詣らんかとおもいしところなり。〔幸田露伴「知々夫紀行」初出1899〕
- ・煉瓦塀の中の工場から流れ出したアンモニアの臭気はその泥溝の上へいっぱいにはびかり漂っていた。泥溝の複雑な臭気の中から特にも激しく。〔佐左木俊郎「街底の熔鋳炉」初出1930〕
- ・初めて松川と一对でやって来た時のブルジョア夫人らしい葉子や、小劇場で見た時の浴衣がけの窶れた彼女の姿——特にも頬のあたりの媚めかしい肉の渦など、印象は深かったが〔徳田秋声「仮想人物」1935〕

また、Googleブックス（ベータ版）の検索では次のような例が見つかる。

- ・会場は人で一杯であったが、若い令嬢や夫人達が特にも多かった。〔徳田秋声「闇の花」妻の留守その一 『徳田秋声全集』第33巻 初出1920〕
- ・男にも特にも腰部以下を丸出しにしてゐるものが多数でした。〔与謝野寛 明治45年3月26日 北原白秋宛書簡(推定) 『与謝野寛晶子書簡集成』第3巻 逸見久美編〕

さらに、宮沢賢治の書簡にも次のような例があることは以前指摘したことがある。¹⁰⁾

9) URL<<http://oshiete1.goo.ne.jp/qa3044997.html?q=3044997>>

10) 小島(2006)。なお、この例はGoogleブックスの検索でも『昭和文学論考 マチとムラと』(小田切進・編)所載の論文の中で引用されたものがヒットする。

早速出掛けて行って農村の問題特にも方言を如何にするかの問題など尋ねましたら〔大正15年12月12日宮沢政次郎あて封書 書簡221〕

ちなみに、これらの「特にも」使用者の生年と没年と出身は以下の通りである。

幸田露伴 1867年 - 1947年／東京都下谷
徳田秋声 1871年 - 1943年／石川県金沢市
与謝野鉄幹(寛) 1873年 - 1935年／京都府岡崎
宮沢賢治 1896年 - 1933年／岩手県花巻市
佐左木俊郎 1900年 - 1933年／宮城県

世代は慶応から明治初期の生まれと、明治後期生まれに分かれるが、没年は一番遅い幸田露伴でも戦後すぐ、ほかは戦中あるいは戦前である。また初めの3人は出身はまちまちだが、後の2人は東北の生まれで、現在の「特にも」使用地域の岩手県を含む東北地方であるのは少々気になるところではある。

用法の面では、幸田露伴の例は文語、他は口語ではあるものの会話文等話し言葉の例というわけではなく、いずれも書き言葉の例としてよい。また、与謝野鉄幹の書簡の例は今一つ意味がわかりにくいものの、いずれの例も、現在の岩手県の高い文体の用法と変わるところはない。特に宮沢賢治の例は、先に大枠を提示してそこから一つ取り立てるもので、現在の用法の中によく見られるパターンに重なる。とはいえ、あまり用例が多くないので定かなことはいいがたい。もちろん、さらに探せばこれ以上に例は見つかるであろうし、明治期から戦前にかけて「特にも」が用いられてはいたことは確かではあるが、あまり頻繁に用いられたわけではなかったということは出来よう。

ただ、このように古くは見られる「特にも」が、現在、書き言葉としてはほぼ岩手県に限って用いられていて、他の地域ではあまり用いられない理由は不明である。また、岩手県内ではいつ頃から盛んに用いられるようになったかについても調べられなかった。こちらも今後の課題である。

4, まとめ

現在、特定の地域に見られる言葉については「方言」や「地域語」、テレビ・ラジオなどで聞かれ全国的に用いられる言葉については「共通語」「標準語」などの用語があるが、細かく見ればそれぞれの定義は必ずしも定まっているとはいえない。また、「標準語」と対立的に「方言」があるとの意識を持つ人も少なくないと思われるが、言語の実態はもっと多様で複雑であり、決して対立的な二者に峻別されるようなものではないし、すべきでもないと考える。

本稿で取り上げたような表現は、そのような所謂「方言」と所謂「標準語」の狭間にある多様な言葉の例といえる。このような伝統的な「方言」とも「標準語」とも異なる地域特有の表現も、その実態は、使う人の意識なども含め、一様ではない。先行研究では、伝統的「方言」や「標準語」との関係という観点などから、いくつかに分けられている。

例えば、井上(1985)では、新しく生まれつつある言い方を「新方言」と名づける。

若い世代に今ひろがりつつあり、改まった場面では余り用いられず(つまり文体が低く)、しかもいわゆる標準語、共通語とは語形が違うものを、「新方言」と呼んでみた。(p.3)

また、同じく井上(1985,p.101など)では、「全国共通語」とは異なるが、文体が高く公の、改まった場でも用いられ、地元では「共通語」と認識されて「方言」とは使い分けられているものを「(体系としての)地方共通語」とし、「(語形としての)地方共通語」と分けて考えている。

あるいは、真田信治は「ネオ方言」というのを提唱する。具体的には、真田(1996)によれば、「ネオ方言」は、「標準語との接触によって生まれた新しいスピーチスタイル」(p.7)であり「標準語との接触による混交形式であるゆえにスタイルのレベルはその誕生の土台となっている既存の『方言』よりは高い」(p.9)が、「標準語」よりは低いとされる。また、井上の「新方言」がどちらかと言うと個々の語法・語形を指すのに対して、「ネオ方言」はコードを指す語であるとしている。

さらに、佐藤和(1996)では、津軽方言に見られる「なくしよう」という表現を例に、標準語とは異なるが使用者には標準語と意識されているため改まった場面でも用いられるものを、「変容方言」とする。「変容方言」も「方言と共通語が混淆を起こした結果」とであるとされており、その点では「ネオ方言」と似ているが、

(「ネオ方言」の)変容方言との違いは、「公的なことばには用いられない」こと、「旧世代からは訛った言い方であると非難の対象になる」ことなど、即ち、話者たちは、この表現が方言であると意識しているかどうかにある。変容方言の最大のメルクマルは、話者自身がその表現をあくまでも共通語であると認識している点にある。(p.110)

と述べている。なお、これは、井上(1985)のいう「(体系としての)地方共通語」(p.101)の中に入れられるものと考えられる。

また、これらとは少し異なる視点から、「気づかない方言」という言い方も聞かれる。これについて篠崎晃一ほか(2008)では「方言であるのに話し手が共通語だと思い込んで使っている言葉」とし、それらを次の二つに分類する。(p.23)

- ①現代において新しく地域差が発生したもの
- ②古くから地域差が存在したが気づかれにくかったもの

また、②についてはさらに、次の2種類に分けられるとする。

- a共通語と形式は同じだが、用法が異なるもの
- b共通語と形式(用法も)が異なるもの

先の「新方言」や「ネオ方言」は方言という意識があるので「気づかない方言」ではないが、「変容方言」「地方共通語」は「気づかない方言」といえる。

さて、本稿で取り上げた二つは、学生たちの反応から見ても「方言」という意識はほとんどないようなので、「新方言」や「ネオ方言」とはいえない。また、確かに「気づかない方言」で「地方共通語」とはいえようが、どちらも「方言との混淆」ではないという点で「変容方言」と

はいえない。

例えば、「特にも」の特徴は次のような点にあると整理できる。

- I 伝統的方言ではないが、若い人に限って用いられるわけではない
- II 近代に例があり標準語としてありえない形ではないが、現在の標準語とは形が異なる
- III 現在の使用は、岩手県内にはほぼ限定される（県内では広く用いられる）
- IV 「方言」であるという意識はなく、「標準語」と意識されているようである
- V（少なくとも岩手県内の用法は）文体が高く、公用の書き言葉としても使用可能

このうち、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの特徴は「変容方言」や「地方共通語」に当てはまる。しかし、「変容方言」も「ネオ方言」と同様「標準語との混淆」により「方言」の方が変容したものであるとされており、Ⅱの特徴、つまりもともと「標準語」であった可能性すらある点で異なる。また、「気づかない」ことは確かだが、「現代において」生じた差かどうかの点で、先の①に分類できるかどうかは定かでない。要するに、「特にも」の場合、形の上で、「標準語」との差が「も」の有無という小さな違いで、文法的にありえないものではない上、方言の影響による変容と見なければならぬようなものでもない点が特徴的ともいえる。

いずれにせよ「方言」と「標準語」の関係、あるいはそれらに対する意識も含め、それぞれの地域やコミュニティで使われていく中で言葉は様々に変容するものであるが、その中においてみたとき「特にも」というのはなかなか興味深い存在ではある。

もとより、本稿は、「ほこいち」や「特にも」について、「標準語」ではないなどと指弾する方向で取り上げたわけでは毛頭ない。言語の一樣態として興味深く観察したことの報告にすぎないことを最後にお断りしておく。

引用文献

- 井上史雄（1985）『新しい日本語—《新方言》の分布と変化—』（明治書院）
- 小島聡子（2006）『「注文の多い料理店」の言葉について』『アルテス リベラレス』78
- 国立国語研究所編（2005）『太陽コーパス—雑誌『太陽』日本語データベース—』（CD-ROM）
- 真田信治（1996）『地域語の生態シリーズ 関西篇 地域語のダイナミズム』（おうふう）
- 佐藤和之（1996）『地域語の生態シリーズ 東北篇 方言主流社会—共生としての方言と標準語—』（おうふう）
- 佐藤亮一（2002）『お国ことばを知る。方言の地図帳【新版 方言の読本】』（小学館）
- 篠崎晃一+毎日新聞社（2008）『出身地がわかる！ 気づかない方言』（毎日新聞社）
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店